

梶山ひろし

プロフィール

●昭和30年10月18日、茨城県常陸太田市生まれ●県立太田第一高～日大法学部卒●サラリーマン生活を経て、昭和63年会社を設立し、中小企業の経営にあたる●平成12年衆議院議員初当選、現在6期●母・春江、妻・由可子、3女の6人家族



レポート View vol.50

平成27年
11月号

愛郷無限
新時代
Kajiyama Hiroshi

●発行／茨城県常陸太田市山下町1189 自由民主党茨城県第四選挙区支部

梶山ひろし・災害対策特別委員長 災害復旧、防災・安全に取り組む。

■第189国会が終了、災害対策の重要法案をかたちに…。

先般、台風18号の影響による大雨豪雨災害において、関東地方、東北地方において亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

延長幅95日、会期245日間という第189国会が閉幕いたしました。安保法制国会と言われ、そのための審議は、戦後の安保関係の法案審議で最長を数える衆参両院で約216時間にのぼりました。その他にも重要な課題がいくつもありましたが、梶山ひろしが委員長を務める衆議院の災害対策特別委員会でも日本における災害への対策についてしっかりと議論をして参りました。

特に昨年9月、不幸にも死者58名、行方不明者5名という大惨事を起こした御岳山の噴火、その後、桜島、箱根山など各地の火山が活動期に入ったのではないかとと思われるような状況になってきたことなどを踏まえ、今国会で「活動火山対策特別措置法」を改正。国・県・市町村で情報の迅速な伝達と火山地域の関係者

台風18号の大雨豪雨災害で常総市決壊箇所を視察



が一体となった緊急避難体制の整備を行えるようにいたしました。

■国民の命を守ることは政治の責任、引き続き、努力を続ける。

安保法制は戦争法案と云う本質とは異なるレッテルを貼られたことで、情緒論が優先、国民の皆様にはわかりにくい議論となってしまいましたが、これはわが国の平和と安全を守るため、いかにすべきかという方法論の違いであったと思います。

戦後70年、米ソの東西冷戦構造が終結し、その一方で、宗教や民族・地域間の対立、貧富の差などの不満からテロという新たな脅威が頻発するなど、国際情勢も変化しました。武器の種類も大きく変わり、数分、数十秒の間にミサイルが飛んでくる。瞬時の判断をしなければならない。そういった最悪の場合を考えながら、戦争が起きないように抑止力を高め、日本の国を守るための対応が、今回の平和安全法制であると思っています。

〈裏面に続く〉



山谷防災担当大臣(当時)に豪雨被害対策を要望